

## 2023 年度春合宿

# 北ア 赤谷尾根～北方稜線～剣岳～早月尾根

2023 年 5 月 3 日～5 日

L.谷嶋、上小牧、増田(記)

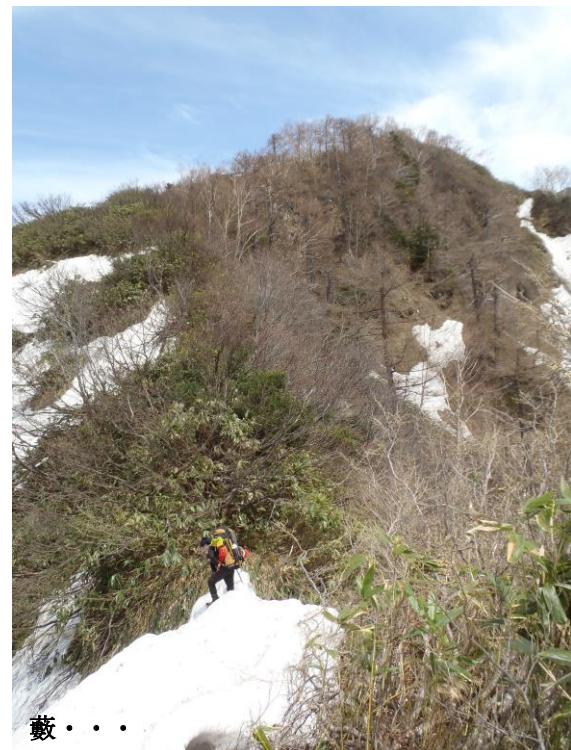
5 月 3 日 快晴

前夜は新栃木駅前で 20 時半頃拾っていただき、谷嶋さんの運転で馬場島まで。2 時到着で 6 時起床。明るくなるとあたりはキャンプ場であることが分かる。のんびり準備して 7 時に出発。

白荻川沿いの道に入り、朝日を浴びながら歩いていく。雪の少ない黒々とした山々が我々を見下ろしている。取水口の手前の林道の分岐で、左に入していくパーティーが居た。あちらはどこへ行くのだろうか？取水口まで行って休憩。すでに汗がすごい。取水口から少し戻り、なだらかな斜面から取りつく。ピンクテープも踏みあともあり歩きやすい。急登をゆっくり登っていく。斜度が緩くなると部分的に雪が出てくるが、ほとんど拾えない。そして踏みあともなくなり藪との格闘となる。暑さと藪との闘いで消耗していく。雪が出てきたところで休憩し、PET ボトルの中に雪を入れて飲んだ分の水分を補填する。雪の上の休憩を何回か繰り返すと、ついに 1863m の平らに到着！単独の若者がテントを張っていた。先行者がいるとは私は気づかなかった。単独クンは水がなくなってしまったのでここに泊まると。ここはまさに剣の展望台。剣岳が真正面に見える。私はあそこまで到達できるのだろうか。どこを通っていくのだろう？岩だらけに見えるが…。私の力量が不安でならない。



1863m からはおおむね雪が続くが、前方に聳える赤谷山は真っ黒だ。果たして泊まれるのだろうか？緩い雪面を登っていく。途中、表面の雪が薄くなっているところを上小牧さんが踏み抜き、下の空洞に落ちてしまい肝を冷やす。が、谷嶋さんが救出。怪我もなくホッとする。一休みしてから出発。その先は一か所だけ急で岩っぽいところが出てきて、私はロープを出してもらった。そして急な雪面を登り、藪に突入。藪の向こうは想像を遥かに超える広大な雪原となっていた。ついに赤谷山山頂！お疲れ様でした！



1863m からはおおむね雪が続くが、前方に聳える赤谷山は真っ黒だ。果たして泊まれるのだろうか？緩い雪面を登っていく。途中、表面の雪が薄くなっているところを上小牧さんが踏み抜き、下の空洞に落ちてしまい肝を冷やす。が、谷嶋さんが救出。怪我もなくホッとする。一休みしてから出発。その先は一か所だけ急で岩っぽいところが出てきて、私はロープを出してもらった。そして急な雪面を登り、藪に突入。藪の向こうは想像を遥かに超える広大な雪原となっていた。ついに赤谷山山頂！お疲れ様でした！



赤谷山には他に 2 パーティー。林道で左に入っていた 3 人 P と屈強そうな 4 人 P。いずれもブナクラ谷沿い(登山道あり)に登って来たとのこと。赤谷尾根は藪だったでしょう。よくそんなとこ登って来たね、と言われてしまう。しばし 360 度の展望を楽しみ、記念撮影をしたのち、整地してテントを張る。三人 P は雪上で宴会をしている様子。ビールとかありそうで羨ましい。赤谷山は北アルプスの展望台で、酒つまみ沢山持ち上げて宴会するだけのために来ても良いと思う。

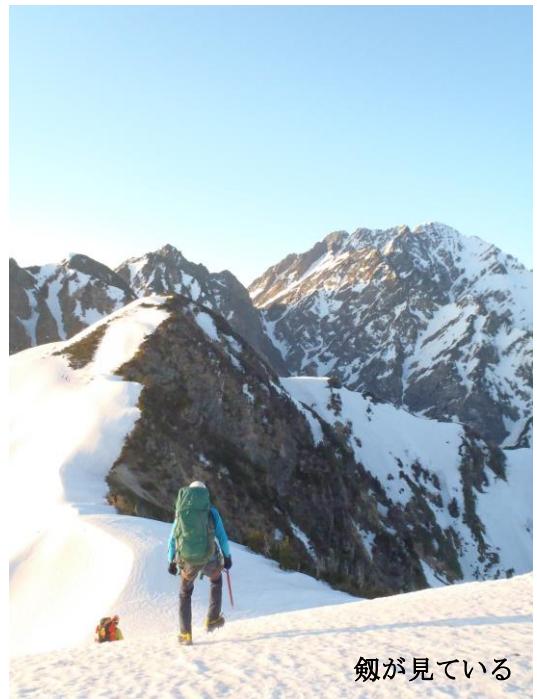
水作りを終えて外に出ると富山湾が夕日に輝いていた。明日も良い天気になりそうだ。夕食はフリーズドライの茄子の味噌汁を使用したマーボー茄子。なかなか良かつた(自画自賛)。食後にはエスプレッソ！谷嶋さんがエスプレッソマシーンを持ってきて驚いた。

【コースタイム】馬場島(7:00)～取水口(7:50)～1863m(13:30)～赤谷山(16:05)

5月4日 快晴

朝ごはんはカルビクッパ。今日は長丁場になるだろう。しっかり食べて行かねば。まだ薄暗い中テントから出る。撤収しているうちに朝日が昇り、朝日を浴びる剣が美しい。

5:20 出発。屈強 4 人 P は先に出発している。雪はおおむね拾え、拾えないところは道をサクサク進む。赤ハゲを登り切って休憩。前方に別の 3 人 P が見える。赤谷山の少し先に泊まっていたようだ。これで①単独クン②我々③屈強 4 人 P④⑤3 人 P×2 の計 5P が同じ日に北方稜線へと入山したことになる。みんな一緒に進んで行くのだろうか…？ 泊まるところに困ったりしないかなあと思う。白ハゲ直下は急な雪壁となっている。このあたりで 4 人 P を追い抜く。白ハゲから下り、肩から大窓への急な下りはほぼ雪がなく、道が良く分からぬ。どこをどう下るべきか？ 雪面を下り、小さな谷をトラバースして尾根に乗る。しかし藪なので少し下ってから





また右の小さな谷の方へ急な藪をトラバースする。すると眼下の小さな雪渓上にトレースが見える。あの雪渓は大窓へとつながっているのだ。そのトレースを追って無事大窓へ。トレースの主(3人Pのリーダー?)にお礼をする。3人Pのあと二人はまだ来ていない。

無事大窓へ下降でき、一安心。休憩してゆっくりと登りにかかる。この先は雪がないところが多いが道が明瞭。振り返ると、他のPが苦労しながら、それぞれのルートで大窓へと下降しているのが見える。4人Pはかなり左側で懸垂しているようだ。トップで大窓に到着した人の仲間2人はまだヤブで苦労している…。ペーティーがバラバラになるのは、結局遅くなるなあと思う。単独クンはだいぶ下に泊まっていたはずなのに、彼らを抜かし、我々の後に付いてきている。2500mピーク直下のガレ場の登りで上小牧さんのアイゼンが外れてしまう。つま先側とかかと側が連結できない不具合発生。谷嶋さんの応急処置でなんとか合体した。素晴らしい！その先の2500mピークで休憩。暑いので水をかなり消費してしまう。とりあえずの雪充填で凌ぐしかない。池ノ平山(2561m)は岩壁に見えるが、右側に雪がつながっており、難なく稜線に上がれた。しかしその先の南峰(2555m)は岩峰が二つそそり立っている。どこをどう登るのか？稜線の左側の雪渓を進み。いよいよ岩峰が迫る。一つ目は左へ。急で腐った雪面のトラバース。先に様子を見に行った谷嶋さんが『アイゼンがな~い！！』と…。待っているところは穴地帯だったのでこの辺りかと必死で探す。『ありました～！！』良かったです！小黒部谷に落ちて行かないようビビリながらグサグサの雪をトラバースし、二つ目の岩峰の直下へ。ここはすごく急だが、岩峰の間の雪渓を登るのが一番ラクそう。今日の登りはこれが最後のはず！と気合を入れてガシガシ登る。最後にハイマツ&シャクナゲの背の低いヤブを抜ければ稜線。剣がぐっと近くなる。お地蔵さんの傍で休憩。みんな疲れ切っている。小窓まであともう少し。

夏道を辿り雪面をトラバースしていくと尾根が切れている。まずは一回目の懸垂50m。南側の雪渓に降りていく。追いついてきた単独クンも我々のロープで懸垂。ここからは一緒に進む。また雪渓をトラバースしてから2505mピークへと登る。ここで谷嶋さんがダウン。ザックを背負ったまま、あおむけに倒れてしまった。見下ろす小窓雪渓はなだらかでとても快適そう。先に進むと小窓の手前で急になるので、二回目の懸垂。上小牧さんが先に降りてくれたが、だいぶ時間がかかっている。行ってみれば結構急なところで50m一杯だった。次に単独クンに来てもらい、彼の50mを借りてセットする。小窓へは私が先に降りて幕場を見つけておくようにとのこと。小窓へと続く雪面に降り立ち、下って行けば快適



な小窓に到着！ほかに誰も居ないので、一等地を幕場と決める。単独クンには悪いと思ったが、彼は雪の上は避けたいようで、お互に良い幕場を見つけられて良かった。もう17時を過ぎている。頭上の小窓尾根に人影が見える。女性の声が男性の名前を叫んでいるのが聞こえる。テントを張っているようだ。

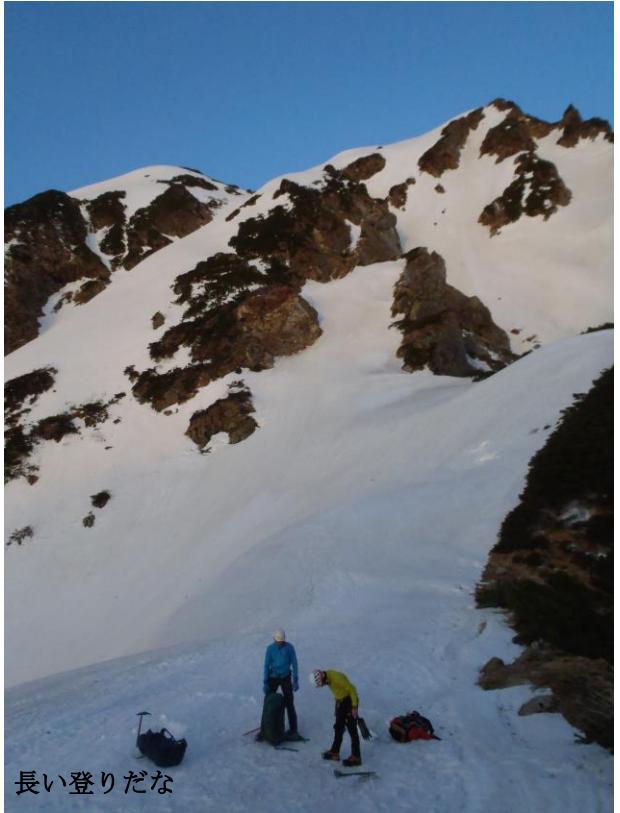
お二人とも非常にお疲れで、付いていくだけだった私はまだ余力があり、水作りを進める。夕飯はドライカレー。外にでてみれば左右の岩壁の間から富山平野の夜景が少しだけ見え、小窓という名前に納得する。明日はいよいよ剣に立てるはず！

【コースタイム】赤谷山(5:20)～赤ハゲ(6:20-30)～大窓(9:15-30)～2500m ピーク(12:15-30)～池平山 2561m(13:10-30)～南峰(14:25-40)～2505m(15:40-50)～小窓(17:30)



5月5日 快晴

朝食はチーズリゾットとオニオングラタンスープ。チーズリゾットは食べきれずお持ち帰りとなる…。今日はいよいよ剣へ！どんなところが出てきても進むしかない。頑張ろう。

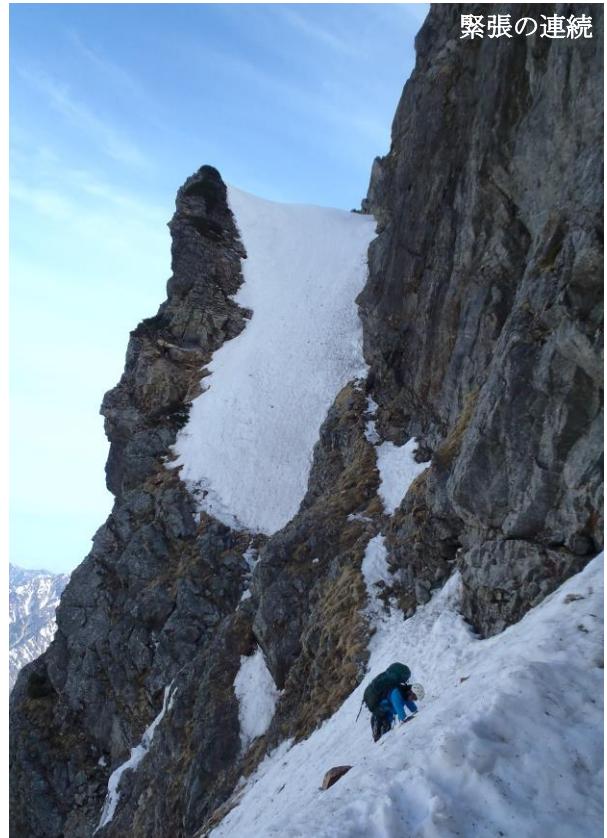


長い登りだな

小窓の頭の左側の鞍部を目指して、広大で急な雪面を登っていく。朝一は硬く、トップの谷嶋さんがしつかり蹴りこんでくれた足場を一步一歩慎重に。怖いので下は見ない。長い登りだった。稜線手前でトラバースのトレースに合流し、小窓ノ頭南の小ピークをかわして鞍部へ。急に風が強くなり寒い。トイレを済ませ、一枚着て、いよいよ核心部へ…。

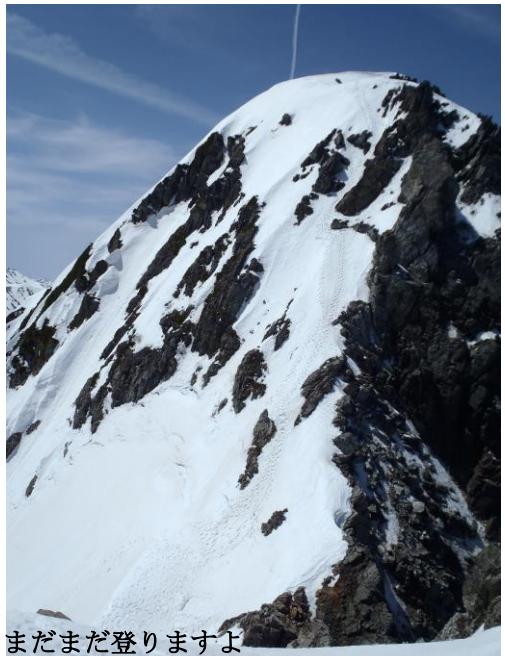
小窓の王の基部を右へ。異様な空間が広がっている。岩壁に囲まれた暗くて急な谷。地獄の入り口のようだ。最初は雪面を下らなければならない。ロープ無しで下れるか？と聞かれるが覗き込むとかなりの急傾斜の雪面。基部に立派な支点があるので懸垂にでもらう。上小牧さんが先行するが、降りすぎて基部の方へ登り返す。基部は部分的に夏道がでているが、雪面のトラバースもある。見たくないがどうしても下が視界に入ってしまう。恐ろしく急な雪面に蹴りこみながらトラバースなんて、滑ったら奈落の底だ。池ノ谷のモンスターが大きな口を開けて待っているようで生きた心地がしない。もうすぐそこに三ノ窓。天国に見える。早くあちらに行きたい…その一心で進む。一步一歩慎重に進めば、平らな天国へ！ほっと一息。緊張しすぎて口がカラカラに乾いていた。少し休憩。目の前のチンネを登っているパーティーがいる。ここまで來るのも大変なのに、さらに岩を登るなんて考えられない！

ここから池ノ谷乗越まで 200m ほど急な雪面を登っていく。これが池ノ谷ガリーだ。すでに気温は高



く、雪も柔らかめ。ラッキーなことにトレースを使える。バケツになっていて朝一の登りと比較したら楽勝だ。しかし写真を撮る余裕はない。一歩一歩着実に登っていく。乗越まであと少し！というところで私の右のアイゼンが静かに外れた。怖くて固まる。谷嶋さんが降りてきて付けなおしてくれた。ありがとうございます！池ノ谷乗越にはテントがあった。先ほどのチンネを登って来た人達のものと思われる。

ここから先はこれ以上の難所は無いはず…！快適な雪稜歩きの始まり。長次郎の頭からコルまでは懸垂。コルで休憩する。ここから見上げる剣は結構高いし、かなり急。あんなとこ登れるのかなあと思ってしまう。雪は腐ってきてるので、足場が崩れて滑って行かないよう慎重に。雷鳥のつがいが間近に現れ、可愛さに癒される。あともう少し！稜線に立てば快適な雪面が広がっている。あのピークが剣山頂だ！今までの行程の場面を思い出し、よくここまで来られたなどウルウルしてしまったが、そこはまだ肩だった…。涙も乾く。あともうひと踏ん張り。そしてようやくの山頂！嬉しさがこみ上げる。三人とも満面の笑みで富山県警の方に記念撮影していただく。私なんかが残雪の北方稜線から剣岳に立ててしまった！素晴らしい！お二人に感謝です。



まだまだ登りますよ



これが剣なのね

しばし感動に浸りたいところだが、もう11時半。急いで下ってもヘッデン下降か…。それとも早月小屋に泊まりか。途中でテント泊？明日は雨予報だからそれはイヤだな…。早月尾根は下りだすとすぐに懸垂二回。雪が少ないためかもしれない。単独クンも追いついてきた。この先はおおむね雪面を快適に歩けるが、登山道を辿るところもある。さらにもう一度、ハイマツにやたらと残置があるところから懸垂する。登山道で大きな岩の間を進むようなところで、岩に触れていたら、なんだか揺れている？

めまい？と変な感覚に襲われた。左右の渓からドーンと雪崩の音。これは地震だ！核心部の時でなくてよかったです…。単独クンによれば早月小屋は夏からの営業らしく、小屋泊まり案は消滅したのでした。もう頑張って下りましょう！

早月小屋には下から登って来たパーティーが休んでいた。我々も休憩。やはり明日は天気悪いから下るようだ。長野の山岳会とのこと。早月小屋からは緩い雪面を下っていく。途中、平らになり、どう進むのかわからぬところがあった。男女の二人組が少し迷っていた。だがよく見ればピンクテープがある。雪もなくなり、ひたすら登山道を下っていく。コシアブラも目に入るが採る余裕なし。松尾平あたりはカタクリが群生していた。これもあり楽しむ余裕はなく先を急ぐ。最後に試練の急な下りを終え、薄暗い馬場島にやっと到着。ギリギリ、ヘッデンにならずに済んだ。お疲れ様でした！単独クンは途中で離れてしまったのでヘッデンになってしまっただろう。

幸いなことにこんな時間でも営業しているお風呂があり助かる。車から風呂への入り口までのちょっとした段差でも辛いほど、みんなヨロヨロとした足取り。風呂から上がってネットを駆使し、その日のAPA ホテル魚津駅前を3部屋ゲットする(アパ直素晴らしい)。駅前近辺の繁華街ではなかなか21時すぎに入れる飲食店は少なく、彷徨い歩いたのち、数件目でやっとビール＆食事にありつけたのでした。乾杯！！！

【コースタイム】小窓(5:10)～小窓の王手前鞍部(6:40-7:00)～三ノ窓(8:10-25)～池ノ谷乗越(9:10-25)～長次郎のコル(10:30-45)～剣岳(11:25-35)～早月小屋(15:20-30)～馬場島(18:50)

